

繁殖期の上陸個体数について

○繁殖期における各主体の上陸個体数調査について

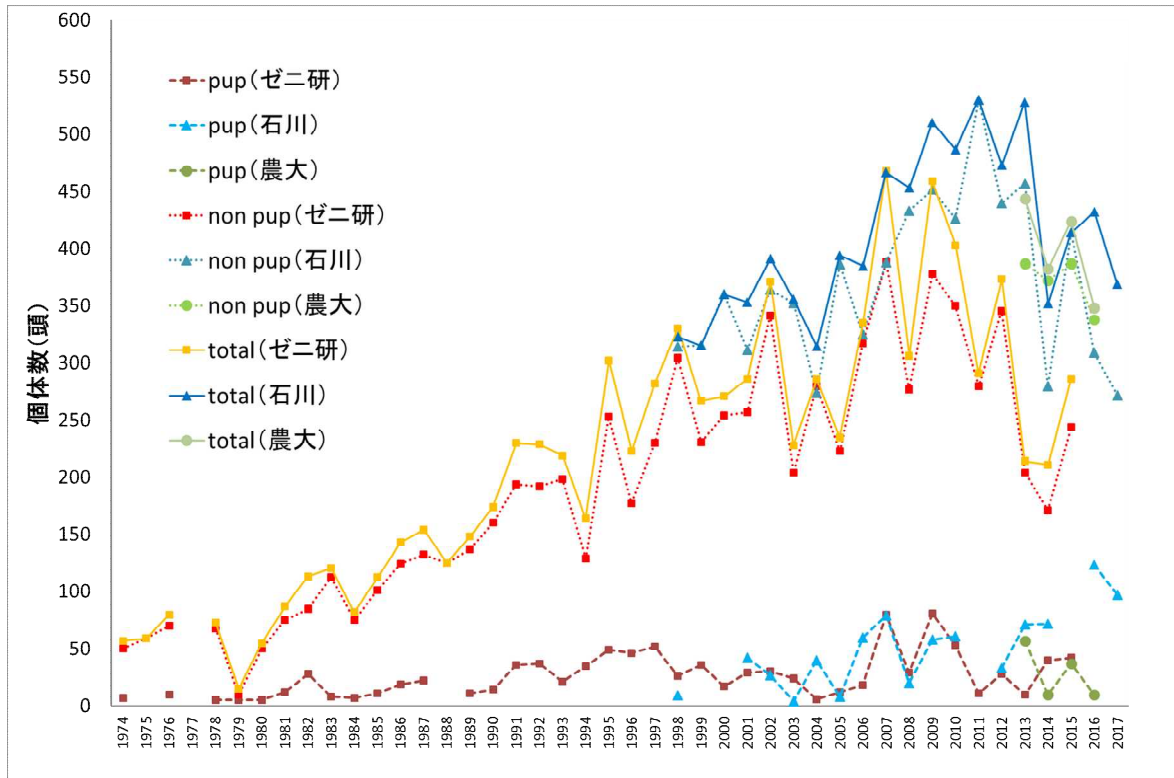
繁殖期における上陸個体数調査は、①海獣談話会及びゼニガタアザラシ研究グループ（ゼニ研）、②えりも町石川慎也氏、③東京農業大学、④環境省により行われている。これまでに把握できた平成 29 年の最大上陸頭数は石川慎也氏による調査結果で、pup97 頭、non pup272 頭、合計 369 頭（5 月 25 日）だった。

調査主体	調査開始年	調査期間	調査条件	データ出典・備考
海獣談話会 及びゼニ研	1974 年～海獣談話会 1982 年～ゼニ研	5 月～6 月 1 週間	陸上から 一定時間ごと	文献（※）引用
石川慎也氏	1998 年 (2014 年から頻度減)	4 月～6 月 可能な日	陸上から 主に午前中に 1 回	石川氏提供
東京農業大学	2013 年	5 月～6 月 長期滞在	陸上から 一定時間ごと	東農大提供
環境省	2017 年	6 月～ 可能な日	上空から 干潮時間前後 (風速の弱い日)	2016 年： 6 月に 2 回実施

※1974～2010：Kobayashi et al., 2013、2011～2015：ゼニ研通信 25 号、26・27 号

○各主体による繁殖期の最大観測数の推移のまとめ

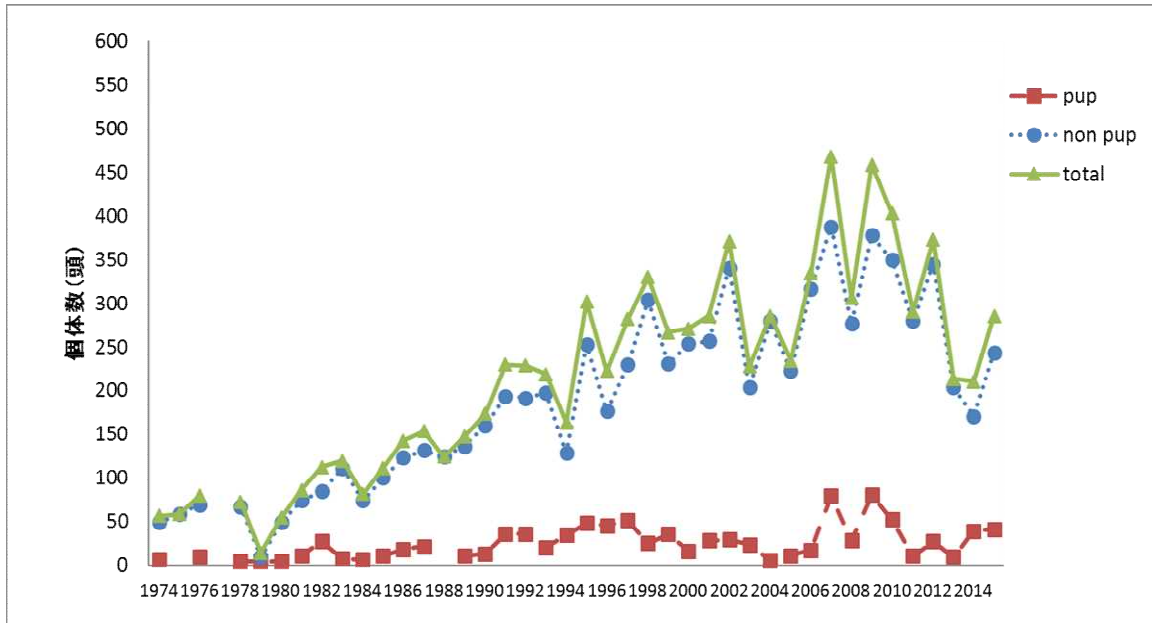
※2017 年は 5 月末現在のデータ



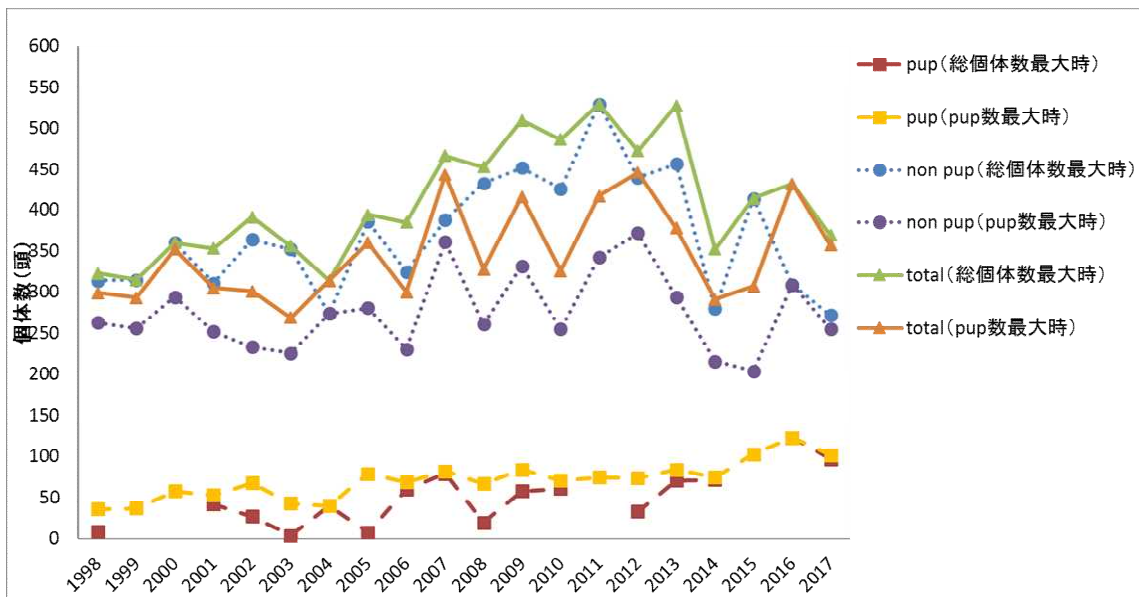
※2016 年の環境省によるドローン調査時の最大数は 162 頭（6 月 7 日）

○個別の主体による最大観測数の推移

①海獣談話会及びゼニガタアザラシ研究グループ（ゼニ研）



②えりも町石川慎也氏

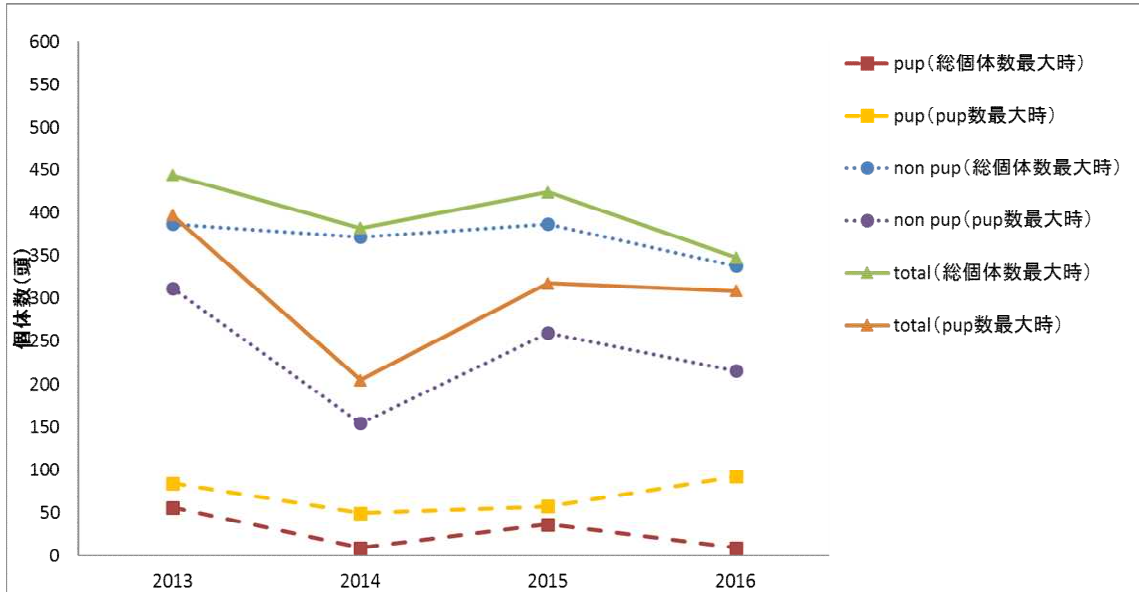


2017年の最大観測数（5月末時点）

総個体数最大時：pup97頭、non pup272頭、合計369頭（5月25日）

pup数最大時：pup102頭、non pup255頭、合計357頭（5月14日）

③東京農業大学



④環境省

2017年は5月21日に、北の海の動物センターによる撮影を実施済み。6月からえりも自然保護官事務所による撮影を高頻度で行う。

引用文献：

Kobayashi Y, T. Kariya, J. Chishima, K. Fujii, K. Wada, S. Baba, T. Itoo, T. Nakaoka, M. Kawashima, S. Saito, N. Aoki, S. Hayama, Y. Osa, H. Osada, A. Niizuma, M. Suzuki, Y. Uekane, K. Hayashi, M. Kobayashi, N. Ohtaishi. and Y. Sakurai. 2014. Population trends of the Kuril harbour seal *Phoca vitulina stejnegeri* from 1974 to 2010 in southeastern Hokkaido, Japan. *Endangered Species Research*24(1): 61-72.

ゼニガタアザラシ研究グループ. 2015. ゼニ研通信 25号: pp 1-56

ゼニガタアザラシ研究グループ. 2016. ゼニ研通信 26・27号: pp 1-53